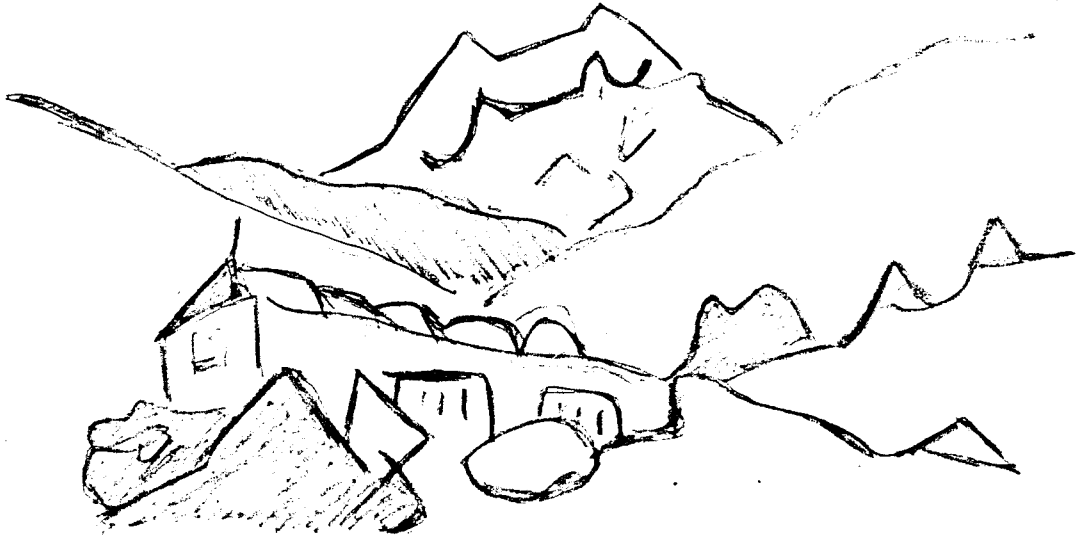


こぼし

1978.12. No.1

上越市本町1. 入村方

上越こぼし山の会



山が
お前が
聴いて
おれ
たの
の
跡
なら

山よ
お前
の
あ
で
姿
も
さ
り

山よ
お前
の
あ
で
姿
も
さ
り

山よ
お前
の
あ
で
姿
も
さ
り

山の
お前
の
あ
で
姿
も
さ
り

▶ 第8回新潟県登山会……雨飾山 1963m

▶ 10月21日～11月22日

▶ 杉本、木島、石平、池田、大島、天尾、山下、白鳥、上田
雨飾山は雨が外に言うことと我知らしいかこの日は晴天に恵まれた。まず紅葉もみごとで山頂はまだ10月だと言うのに雲が30cmから50cmぐらいいもあっておどろいた。

▶ 高谷池 ↔ 大谷山

▶ 11月3日～11月6日

▶ 杉本、池田、山下、天尾、西郷、松原、(田中) 渡部、二石
新潟県観光課の人達数人といっしょに高谷池ヒュッテでの今年最後の一日を楽しく過ごした。1日の朝、9時10分に高谷池を出発して10時45分山頂に上り10分ぐらいい休んだ。小憩に帰ると渡部さんの作った食事がまわっていきおいしく食べた。

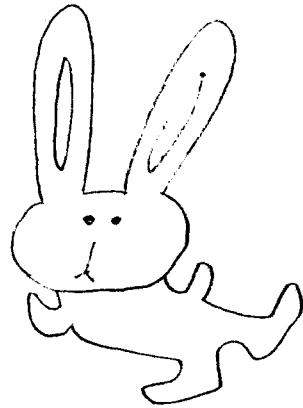
▶ 戸隠八方院

▶ 11月18日～11月19日

▶ 松原(1)～(2) 杉本、木島、池田、大島、天尾、西郷、
西郷、二石 —— 計九人

戸隠 両方の山並みは山頂に近づくにつれてノボリノボリと
標高はそれほど高くはないが急峻なカ所の多い山である。
麓からすく急な登りになり呼吸はみだれ膝の足を止めて荒い
ききはく、五十間長屋、百間長屋を通り西麓には4時頃ついたが
ライトをはり終わるともう豪雨になった。山でこんなふうにして
一夜を過ごしたこともや。ガイルを使つての岩登りや鎖場……
壁に括弧、食の刃痕と言つた所々としても狭く下を見ると吸い込まれ
ような思いなど々……私には忘れがたい経験であった。

◆ 八方尾根



▷ 唐松岳 (八方尾根)

▷ 11月25日 — 26日

▷ 鈴木, 松原, (関)

▷ コース及び内容

(11月25日)

A115 : 00 高田, 細野 7 : 10

ターミナルまで身置尾根, 8 : 00 出陣, 快晴。

リフト移乗 (黒菱平) 8 : 10 谷 雪はなく身置の石帯に行く。

八方山荘 9 : 20 着, オニケルンより雪を見る。— 昨年の11月同日の時と同じ積雪状態であるが、風が冷たい。ワカンはターミナルに置いてくる。オニケルン、八方池と快速に通過し、丸山にて大休息。八方の名の示す通りの展望を味わう。

丸山より尾根はやせてきて、最後に雪壁を越えれば主稜線となり、すぐ下に山荘がある。山荘より黒部川を越えて剣岳の勇姿をしばしば眺める。早々に杉本より借用の2人用エスパーを張る。

高田 → ターミナル → 黒菱平 → 八方山荘 → 八方池 → 丸山 → 山荘

5:00 7:10 8:40 9:20 10:40 12:05 14:00

8:00 8:50 9:30 11:00 13:10

(11月26日)

二人の間で、小生は暑くてなかなか寝つかれなかった。

6 : 00 テントをおて牛首山とのコルにて朝日をおかむ。

今朝は快晴だが風が強く猛烈に寒い。完全な冬山となる。

雪はとはこけているが、ハバリついた雪はクラストしている為、マイヤーをつける。山頂を往復し、すぐ下降する。

八方池を過ぎたあたりより雲行があやしくなる。

山荘 → 頂上 → 山荘 → 黒菱平 → 細野 → 高田

9:10 9:30 9:45 12:10 13:10 15:40

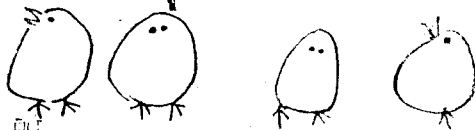
9:35 10:05 12:20 14:10

記 鈴木

❖ 新入会員の紹介

★ 阿部 正幸

- ・ 職場----- 近藤微生物研究所
- ・ 酒 ----- 人並み
- ・ 趣味----- つり・切り収集



★ 上石 富士子

- ・ 職場----- 高田農協
- ・ 酒 ----- 人並み
- ・ 趣味----- スキー (腕前は?)
- ・ これから登りたい山-----
→ 夏山の北アルプス

★ 高森 美智代

- ・ 職場----- 大島農機株式会社
- ・ 酒 ----- 人並以下
- ・ 趣味----- レコード鑑賞, 読書,
- ・ これから登りたい山
→ 穂高

★ 宮下 幸彦

- ・ 職場----- 上越土木事務所

お2回 県登研 (登山研究交流集会) 12/2~3 開始

去る12月2日、3日の2日間、直江津において県登研が開かれ、県下6加盟団体から約35名が参加し、全国連盟理事長 高橋伸行氏の講演、1団体2名の研究発表、4分科会に分れての討論と、ハードなスケジュールではあるが有意義な日を過ごした。こぶしからの参加は、大島、古木、天尾の3人。
 <講演の要旨>

「戦前の登山は一部の有産階級によって行われ、多くの勤労国民は、過酷な労働条件の下で無権利状態におかれており、登山を楽しむ余裕はなかった。戦後は登山の担い手が有産階級から勤労国民に移りその為に登山人口が急激に増加し国民が登山を楽し

7ページの上へ

妙高清掃登山と

『ゴミ会議』



副会長 杉本敏宏

妙高山や火打山に登った人は、これらの山が他の山々と比較してゴミが少なく、美しい山だなァということに気がついていると思います。妙高や火打がきれいなのは、妙高高原を美しくする会（妙高高原会、妙高村などで組織）と当会が、毎年2回づつの清掃登山を行い、ゴミをかたつけてきたからです。

妙高連峰の清掃登山が始めて実施されたのは、1974年（昭和49年）7月でした。美しくする会と新潟県山のゴミ会議が主催で行い、当会からも多数参加しました。この時のゴミの多さにビックリし、「地元の山ぐらい自分達の手できれいにしよう」と当会に取組むようになっただけです。そうした意味では、ゴミ会議は、妙高連峰清掃登山のまみの親といえるわけで、その業績はかおりに評価しなればならないと思います。

ところで、ゴミ会議が結成されたのは、1972年のことです。日本は、1960年代に池田内閣の所得倍増計画などの高度経済成長政策によって急成長しましたが、その半面公害問題も、自然破壊なども進み、田中内閣の日本列島改造計画によってその矛盾が表面化してきていました。そして70年代始めごろから、全国各地で公害反対運動も自然保護運動が盛りあがっていました。

こうした全国的な動きの中で、新潟県においては、「自然を守る県民連合」が結成され妙高有料道路反対の運動を進め、他方登山者や自然愛好者を中心に「ゴミ会議」が結成されたのです。県内各地の自然保護運動を結成以来一貫して呼びかけている全国連盟の方針をまかし、こちら両組織に積極的に加盟し活動を

別脱しました。例えば、ゴミ会議事務局長の猪俣氏は新井山
の会員でした（後に退会）し、他にも運営委員や地域連絡員に
たくさんの会員がなっていました。当会も県労山の一角として
発足の頃から加わり、活動してきました。しかし、その後県
労山の活動が弱まり、両組織との結びつきも弱まってしまいま
した。

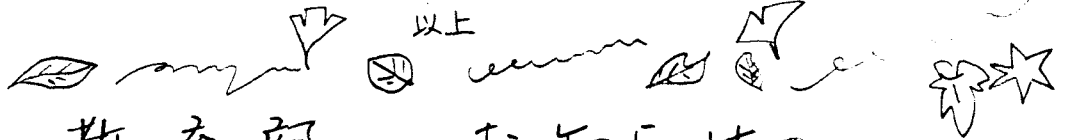
今年夏の妙高清掃登山は、再び「ゴミ会議」も加わり、大規
模に取り組まれました。その総括はすでに発表されていますが、
この過程で当会と「ゴミ会議」の間にトラブルが発生してしま
いました。めざすところは同じなのですが、当山の活動のあり
方について多少意見がちがっているわけですが、これらは、必ず
解決するはずですし、その方向で努力しなければなりません。

「ゴミ会議」と当会のめざすところは同じとはいっても、ち
がいは当然あります。山岳会は登山をすることが主体の組織で
すから、自然保護運動をどんなに重視してもそれが活動の中心
になることはありません。これを中心にしたら山岳会ではなく、
自然保護団体になってしまうからです。県労山は、山岳会の運
動、「ゴミ会議」との関係をおのづかのように規定しています。

「各会が『持ち山』を決め、これを系統的、持続的に清掃す
る。この活動を通じて『ゴミ会議』に結果していく」

「ゴミ会議」は各地に支部を結成することを決めています。が
上越市においても支部結成が急務になっています。当会は、必
ずがて結成される支部の中心になるべき組織です。今までの経験
と成果を生かし、発展させるためにいっそう努力しなければな
りません。妙高連峰から——いや、越後の山々から、ゴミが一
掃される日をめざして。

4ページより
 む為に必要な権利(有給休暇の獲得、拡大、etc)を社会的に保障させる必要が出てきた。この様な中で登山は生まれた。登山は“権利としての登山”という方針のもとで、多くの国民が登山の楽しみを知り、登山を通じて国民が豊かな人間性を養えるように活動をしている。」



教育部よりお知らせ

1月になりましたら、机上学習を始めます。(新入会員向け)

- (1) 山岳会(こぶし)と登山
- (2) 山行にあたっての心がまえ(計画書)
- (3) 装備・食料
- (4) 技術概略

等々です。

日時、担当者、テキストについては後ほど連絡します。

第7回総会開かれる

去る10月29日、東京会館において、本会の総会が開かれ、活動のまとめと決算及び活動方針及び予算が討議・決定され併せて下記の新役員が選出された。

会 長：島田 王郎
 副 会長：木島 忠彦
 ：杉本 敏宏
 事務局長：大島 美昭

運営委員

(ハイキング)：古木 博明
 (装 備)：池田 貞治郎
 (会 計)：松原 妙子
 (選 対)：鈴木 元康
 (核 関 係)：天尾 俊一